

★ 検索フォルダー1/2

WWW検索時の移動「/」の扱い

WWWから検索する場合に「/」をつけた状態で検索するか「/」を除いて検索するかを設定します。

- WWW検索時の移動[/]の扱い
- = そのまま検索
 - = 移動「/」を除き検索

GL取込の有無

検索時にQRZ.COM等へ書き込まれているGLを取り込むか否かを設定します。

- GL取り込みの有無
- = 取込
 - = 未取込

先読み時のBEEP音

1文字入力ごとのBEEP音を出すか否かを設定します。

- 先読み時のBEEP音
- = 出さない(標準)
 - = 出す

LOTWアクティブ局チェック

登録時にLoTW登録状況を備考1に書き込むかどうかを設定
BGALOGフォルダーに「lotw-user-activity.csv」ファイルが必要です。
過去のデータをチェックして登録するには「⑦ LOTW等DB処理」で登録する必要があります。年月日を希望に基づき変更してください。

- LoTWActive局チェック
- = 実施(標準)
 - = 未実施

LoTW OK局チェック 以降
2000

★ 登録フォルダー

FT8LOG登録時の取込方法

「□」=使用すると直接Logに書き込みますが、NW等からの取込を分はタイムラグにより取り込むことができません。

「レ」=状態では、ワーク欄迄にまで取込NWからのデータを含めて取り込みますが、登録ボタンを押す必要があります。

一気にBGALOGに登録してしまうか、ワーク欄にNWデータを含めて取り込み登録ボタンを押すかの違いがあります。

- FT8LOG登録時のBGALOGへの取込方法
- = 直接取込 ⇒ そのまま登録する (NW関係取込無)
 - レ = ワーク欄へ書込 ⇒ 確認後登録ボタンで登録 (NW関係取込有)

テルネット同期

OFFの状態ではメイン画面のデータベースのみをマスターファイルと同期を行い、テルネットの関係のデータベースとの整合を行いませんのでテルネット画面では登録済の状態とならず未QSOとして扱われます。

- テルネット同期 (登録直後に即登録済データをテルネット画面へ反映可否)
- = 非同期 (登録処理速度優先、同期はテルネットのリフレッシュが必要)
 - レ = 同期 (テルネットリフレッシュを合わせて実施)

テルネット画面のリフレッシュボタンを押す必要があります。

チェックONとすると登録後にテルネット画面のデータベースもあわせて動機を取りますので交信済となりますが、その分登録に時間を要するようになります。

登録直後のソート

登録後の抽出状態を選択します。

「レ」にするとすぐにリフレッシュ状態とします。

- 登録直後のソート
- = 局抽出状態 (投入結果と局を確認)
 - レ = 日付順リフレッシュソート (すぐに日付順にソート)

★ カード処理関係フォルダー

マネージャが相違した場合の表示

各種検索の都度、マネージャリストへの登録済と異なる場合に注意表示があります。

非表示とした場合はマネージャについては各自で確認する必要があります。

- マネージャ相違時のマネージャチェックヘルプの表示
 - = ヘルプ出力
 - レ = ヘルプ非表示（自己管理とする）

 BGA LOG メッセージ ボックス (画面クリック or エンターキーで終了、待つボタンでMSG.TXTへ書き込み) ×

表示サンプル

★ QSL マネージャ ★

登録済のマネージャと異なるマネージャが検索されました。

DX局=EJ7NET

登録済マネージャ=HB9DGV

レポート=QRZ.COM

確認状況=OK

新検索マネージャ=HB9ASZ

レポート=QRZ.COM

「QRZ.COM」のHP等で直接確認願います。

ワーク欄で直接修正をしていただきますと自動でレポートが送られ当方で登録後に全員に反映が行われます。

QSL未送信処理

登録の都度すべてのデータを発行しないマーク「/」を事前に記入するか、否かを設定します。

- 全QSLカード全て未発行（登録時に「/」記入）
 - = 未記入（標準：発行）
 - レ = 「/」記入（全未発行）

WASAHF.TXT登録

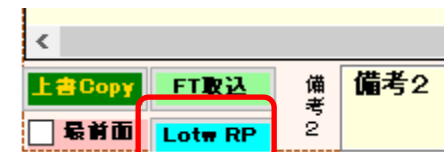
タリカード受領時にWASA.TXTへの登録をするか、否かを設定します。

- QSLカード受領時に「WASAHF.TXT」へ取り込み管理設定
 - = 実施
 - レ = 未実施

★ フォルダー設定フォルダー 1/2

TQSLフォルダーのフルパス名を設定

フルパス名を設定しておくのと右の「LOTWレポート」ボタンクリックで自動的にLOTWへの送信データ作成後に「TQSL. EXE」を自動的に起動できます。



その場所は、それぞれの設定方法により異なります。

標準で使用できない場合は「★ アドレスの登録方法」を参考に設定してください。

TQSLフォルダーのフルパス名 (TQSL. EXE自動起動)

記入例 1 : C:¥TrustedQSL¥tqsl.exe

2 : C:¥Program Files¥TrustedQSL¥tqsl.exe

登録

C:¥TrustedQSL¥tqsl.exe

★ アドレスの登録方法

- ① TQSLのあるフォルダーを選択しておきます。
- ② 「tqsl.exe」を選択
- ③ 右クリック
- ④ パスをコピー
- ⑤ フルパス名をコピー
- ⑥ テキストボックスへ張り付け

★ フォルダー設定フォルダー 2/2

LOTWへのアップデート作成後の「TQSL. EXE」自動起動

TQSLフォルダーのフルパス名 (TQSL. EXE自動起動)

記入例 1 : C:\TrustedQSL\tqsl.exe
2 : C:\Program Files\TrustedQSL\tqsl.exe

登録

C:\TrustedQSL\tqsl.exe

① ADIF等ファイルへ出力

- 1 : LOTW等、提出DB作成
未発行分のみ抽出、「L」書き込み処理有り
(コール+日付+時間+モード+バンド+周波数)

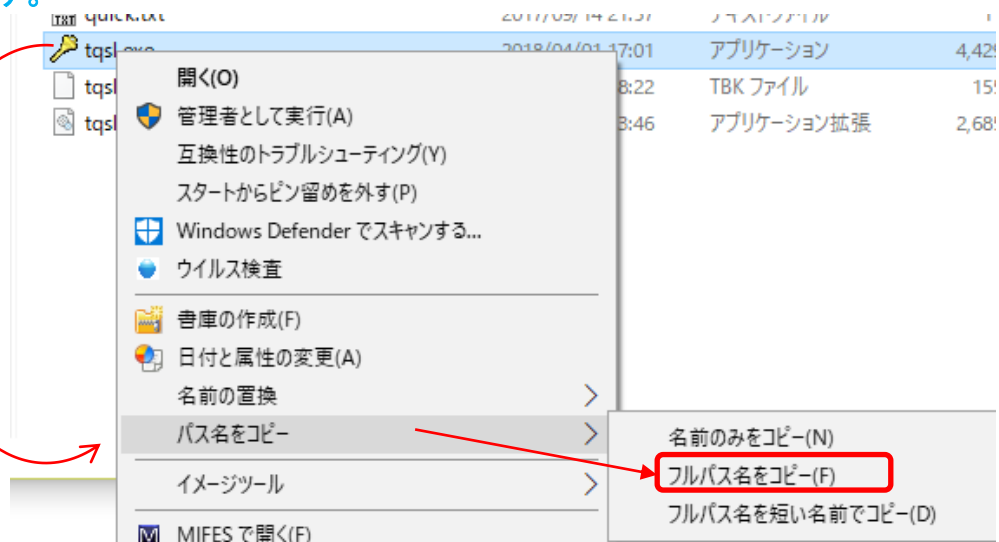


コールサイン、ADIファイル作成時のTQSL. EXE自動起動オプションです。

- ・ 未記入の場合は自動起動しません。
 - ・ 各自のTQSL. EXEの位置を確認して書き込んでください。(記入例の場所を参照)
- 正しい位置が書き込まれているとadifファイル作成後に自動的にTQSL. EXEが起動しアップデートが簡単になります。
メイン画面にある「lotw RP」ボタンでADIFファイル作成の「1」を実施します。

エクスプローラでアドレスを確認してそのアドレスをコピーする方法

- 1 TQSL. EXE を記入例の場所等から見つけます。
- 2 TQSL. EXE を右クリックします。
- 3 パス名をコピー を選択
- 4 フルパス名 を選択
- 5 BGALOGのテキストに貼り付け
- 6 登録ボタンで登録します。



★ 数値設定フォルダー

モード別スプリット幅を設定

モード別にスプリット幅を設定しておくとな瀬等の文字があれば、サブの送信周波数とその値に設定されます。
テルネット等でUP周波数が書かれていない場合に有効となります。

モード別スプリット周波数設定 (単位: K h z) 半角整数~小数点以下1桁まで
(例: [1.5] [5] [1.2])

CW	SSB	RTTY
<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="5"/>	<input type="text" value="1"/>

★ その他のメインオプション設定フォルダー

プログラムの終了時の指定ドライブ保存及び日付の付与

メイン画面終了時に自動的に指定場所にバックアップします。
日付とセットで登録します。

検索	登録	カード処理関係	フォルダー設定	数値設定	その他の環境設定
----	----	---------	---------	------	----------

終了時に開始画面の「指定ドライブ保存」を自動実施

= 実施しない (未記入)

= 実施する 記入例[D:¥]
保存先 =

上記保存時の日付付与

= 付与しない ↓ 保存例
D:¥BGALOG_ACCDB

= 付与する ↓ 保存例
D:¥190413_BGALOG_Backup¥BGALOG_ACCDB